小中連携プロジェクト（授業編）

【小学校編】　　【中学校編】

指導のポイント	過程		学習活動と児童生徒の姿	学習活動と児童生徒の姿	過程		指導のポイント
前時の振り返り 学習課題・学習問題の提示 （板書による）	導入	1 とらえる	○課題の意識化 →既習事項の振り返りをする。 →学習のめあて・学習課題（本時のゴール）をつかむ。 「この時間は、こんな勉強をするんだ」	○課題の意識化 →学習課題・学習のめあて（本時のゴール）をつかむ。 →既習事項と「どこが」「どのように」違うのか気付く。 「なぜだろう」「やってみたい」「できるようになりたい」	1 つかむ	導入	前時の想起 既習事項との比較 動機付け・意欲付け 学習課題・学習のめあての提示 「先生の課題」から 「児童作成の課題」へ
書く活動 説明の仕方・聞き方の指導の積み重ね 問いかけ ヒントカードの提示	展開	2 考える・深める	○課題解決への見通し →学習の手順確認 →見通しをもつための「問いかけ」 →児童の見取りと支援 ○考える時間の設定 →自分の考えをもつ。（自分の考えを書く） →伝えるための準備をする（話型の活用・具体物操作の準備） ○考えを伝え合う →自分の考えと比べながら友達の考えを聞く。質問する。 →友達の意見と比べながら、自分の意見を伝える。 →友達の考えの良さに気付く。 →自分の考えを見直し、修正する。	○課題解決に必要な情報の取り出し →文章・グラフ・データ・図表・記号・心情等の多様な情報を読み取る。 →予測する。解決の方法、見通しをもつ。 （「何を」「どう」考えていくのかが分かる。） ○１人でじっくり考える場の設定 →１人で考え、自分の考えをもつ。 （自分の考えを書く等） →既習事項等を生かして考えていこうとする。 （考えの概略をもつ） 「前の学習では～」「～を使って考えたら～」 「例えば～」「～を使ったらどうだろう」 ○考えを「伝え」「くらべ」「深める」 →自分の考えと比べながら友達の考えを聞く質問する。 （「どこが」「どのように」同じか違うか） →友達の意見と比べながら、自分の意見を伝える。 →友達の考えの良さに気付く。 →自分の考えを見直し、修正する。 「なるほど」「○○さんの考えもいいなぁ」 「～と言うことは-なのかな」	個人の力を高める 2 読む・見直す 3 考える 4 深める	展開	資料モデルの提示 資料読解を学ぶ 情報の共有・比較 考える視点の明示 考える時間の設定 考えをもたせる工夫 ペア・小グループでの活動 ヒントコーナー等 話し合いの視点の明確化 話し合いの視点に沿う発言 考えは類型化
自己の到達度評価 授業の評価 主に教科書を活用した習熟問 題・宿題の活用	まとめ	3 まとめる 4 振り返る 5 定着・宿題	○学習の振り返り・定着 →ルックバック（振り返りカード）の活用 →習熟問題への取り組み →宿題による確実な定着	○学習の振り返りと変容の自覚 →学習課題・学習のめあてに沿って，自分の言葉で振り返る。 →自分の達成度・理解度を判断する。 →学んだことを生かしたり、もっと学習したいことや新たな疑問を見つけたりする。	5 まとめる 生かす	まとめ	振り返り キーワードの提示 応用問題の実施 次時への意識付け

【学習指導の統一化】
～先生が変わっても児童が安心して授業を受けられるよう～
・授業の流れ
　めあて→問題解決→まとめ
・板書の統一
　囲みや線：赤
　大事なところ：黄色
（ノートでは青）
　その他：白　基本３色で行う
・自分の考えを書いて表

Point 1

学習課題・学習のめあての提示
・赤のチョークで課題・めあてを囲むか、アンダーラインを引いて示す。
「学習課題・学習のめあて」とは？
→教師側の「学習のねらい」に到達するように、生徒が１時間の授業で主体的に追究することをわかりやすい言葉で提示したもの。
→文末「学習課題」・・・「～だろうか」
　　「～かな」
　　「学習のめあて」・・・「～しよう」
　　「～できる」
（ねらう要点に応じた文末＝身につけた姿が見えるもの）

Point 2

つなぐ＝交流
・自分の考えと友達の考えつなぐ。（思いを交換する）
・友達と一緒に体験する　・既習事項を生かす、結びつける。
・友達の考えのよさに気付く　・自分の考えを加除修正する。

Point 3

まとめる・生かす
・青のチョークでまとめの部分を囲むか、アンダーライン　を引いて示す。
・「学習課題・学習のめあて」に沿って、自分の言葉で振　り返る。
・１時間の学びを振り返ることのできるノートを工夫する。